

二種混合(ジフテリア・破傷風)予防接種について(お知らせ)

二種混合の予防接種を次のとおり実施しますのでご案内いたします。

適切な時期に予防接種を接種することは、ワクチンで予防できる感染症においてとても重要です。接種可能期間を過ぎて接種すると、自費となります。接種可能期間内で体調のよいときに予防接種を受けましょう。

❁対象期間及び接種回数

11歳のお誕生日から13歳のお誕生日の前日まで(1回接種)

❁料 金 無料

❁実施場所 ①市内予防接種実施医療機関(裏面参照)
②県内予防接種実施医療機関(事前にかかりつけ医へご確認ください)

❁持 参 物 ①同封の二種混合予防接種予診票
②母子健康手帳
③本人確認ができる書類(マイナンバーカード、資格確認証等)



※別紙「ジフテリア・破傷風予防接種について」の説明をよく読んでください。
※必ず保護者の方が同伴してください。

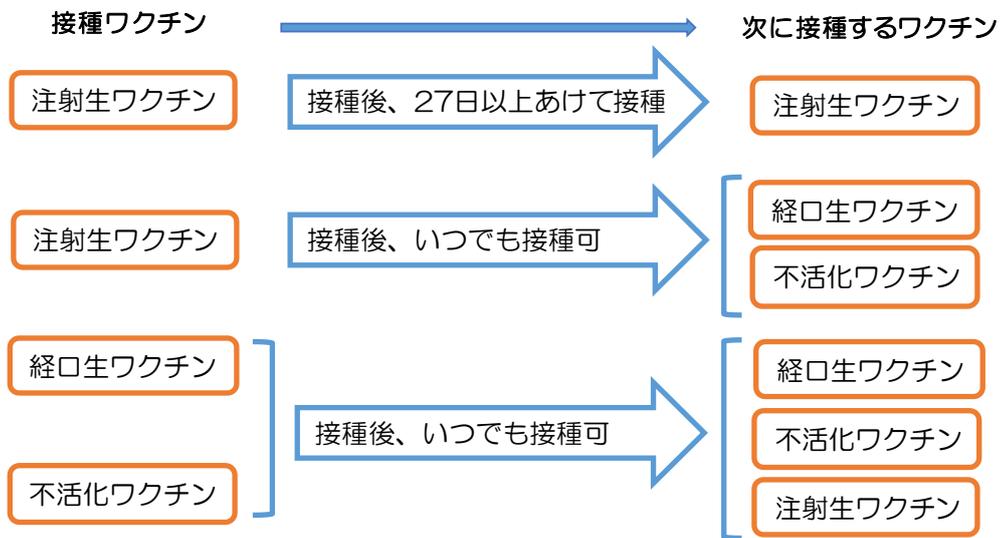
乳幼児期に受けた、第1期 三種混合(ジフテリア、破傷風、百日咳)、もしくは四種混合(ジフテリア、破傷風、百日咳、不活化ポリオ)の予防接種で得られた免疫を保つために、第2期として二種混合(ジフテリア・破傷風)ワクチンの追加接種を受ける必要があります。

今回の第2期の予防接種は、第1期の接種で得られた免疫を保つために行うものです。

第1期の予防接種(初回3回と追加1回)を受けていない方で接種をご希望の方は、かかりつけ医とご相談ください。ただし、この場合は任意接種となるため、自費となります。

1. 異なる種類のワクチンを接種する場合の間隔

令和2年10月1日より予防接種法の一部改正により、異なる予防接種を接種する際の間隔が下記のようにになりました。(例：二種混合接種後、インフルエンザを接種する際など。)



★**注射生ワクチン**：BCG、MR（麻しん・風しん）、水痘、
主な任意接種（有料）では、おたふくかぜ

★**経口生ワクチン**：ロタウイルス

★**不活化ワクチン**：ヒブ、小児肺炎球菌、B型肝炎、四種混合（不活化ポリオ）、
日本脳炎、
主な任意接種（有料）では、インフルエンザ

2. 令和7年度 市内予防接種実施医療機関

医療機関	電話番号	予約	医療機関	電話番号	予約
アイシークリニック	62-0118	要	中島医院	62-0358	要
赤門 森医院 ※森医院より名称変更	63-1500	要	にしかわクリニック	63-6500	要
安藤医院	62-0129	不要	ふじた医院	62-0555	要
善通寺前田病院	63-3131	不要	四国こどもとおとなの 医療センター	62-1000	要
田所医院	62-1223	要			

☆上記医療機関以外に、香川県内の広域予防接種協力医療機関でも無料で予防接種が受けられます。

問い合わせ先 善通寺市保健福祉部保健課 0877-63-6308

ジフテリア・破傷風の予防接種について

【ジフテリア・破傷風の病気の説明】

(1) ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。現在では患者発生数は年間0名が続いています。しかし、ジフテリアは感染しても10%程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状のない保菌者となり、その人を通じて感染することがあります。

感染は主にのどですが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様の咳、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病2~3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

(2) 破傷風

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。

患者の半数は本人や周りの人では気がつかない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。また、お母さんが抵抗力（免疫）をもっていれば出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

【予防接種を受けることができない場合】

(1) 明らかに発熱（通常37.5℃以上をいいます。）のあるお子さん

(2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん

急性で重症な病気で薬をのむ必要のあるお子さんは、その後の病気の変化もわからないことから、その日は予防接種を受けないのが原則です。

(3) その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかなお子さん

※「アナフィラキシー」というのは通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるような激しい全身反応のことです。

上の(1)~(3)に当てはまらなくても医師が接種不相当と判断したときは、予防接種を受けることはできません。

【予防接種を受ける際に注意を要する場合】

(1) 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けているお子さん

(2) 予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられたお子さん及び発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられたお子さん

(3) 今までにけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん

けいれん（ひきつけ）の起こった年齢、そのとき熱があったか、熱がなかったか、その後起こっているか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ずかかりつけの医師と事前によく相談しましょう。

(4) 過去に免疫不全の診断がなされているお子さん及び近親者に先天性免疫不全症の方がいるお子さん

(5) ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗生物質、安定剤などが入っているものもあるため、これらにアレルギーがあるといわれたことのあるお子さん

【副 反 応】

注射部位の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの局所反応が主で、7日目までに約30%認められます。重い反応がなくても、機嫌が悪くなったり、はれが目立つときなどは医師に相談してください。

【予防接種を受けた後の一般的注意事項】

- (1) 予防接種を受けたあと30分間程度は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがあります。
- (2) 接種後、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- (3) 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- (4) 当日激しい運動はさけましょう。
- (5) 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。